

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.4 7

開催地：八代市宮地校区

平成 19 年 11 月 6 日（火）、八代市宮地校区（会場：宮地公民館）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 40 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	37名
市外	4名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本高水流量は住民討論集会の時と数字が変わっているのではないか。科学的根拠に乏しいのではないかと懸念を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 討論集会の時は、当時の治水計画である工事实施基本計画の内容についてご説明してきたところです。 今回、基本方針を検討するにあたり討論集会での議論等を踏まえ、近年までのデータも考慮するなどして様々な検証を行ったところです。 なお、基本高水のピーク流量は、歴史的洪水の検証など様々な検討を行ったうえで、その妥当性を確認しています。
<ul style="list-style-type: none"> 川内川の降雨を球磨川にあてはめるのはいかなものか。降雨は地形など様々な要因がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小委員会において、基本高水のピーク流量の妥当性の検討のため、平成 18 年 7 月に川内川流域で実際に降った雨が球磨川流域で降った場合、どのくらいの流量になるのか計算して比較してはどうかとのご意見があったことから検証を行ったものです。
<ul style="list-style-type: none"> 報告会では、「川辺川ダム」という言葉だけは封印しながら、ダム以外の具体的な洪水調節方法については「技術的」「社会的」「環境的」に無理という説明が各地で繰り返されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の検討過程において、環境を含む自然的及び社会的制約の中で、河道でできるだけ多くの流量を安全に流すことを念頭に計画高水流量の検討を行ったところですが、その過程で河床掘削や引堤等について検証を行ったところです。計画高水流量を安全に下流に流すためには、例えば人吉地区では普段の水位より上の河道掘削等の実施、中流地区では嵩上げ等の実施を行うことで流下能力を高めていくことが必要になります。 今後策定される河川整備計画において、河道の掘削、嵩上げやダムなどの洪水調節施設の整備など、具体の治水対策について検討していくこととなります。
<ul style="list-style-type: none"> 報告会で明らかにした事実・流域住民の意思を国（国土交通省本省）に伝え、基本高水流量の設定に、報告会に出された事実・意見を反映させ、公平に審議する機会を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、球磨川における長期的な河川整備の目標等について、様々な分野を専門とされる方々で構成される小委員会において丁寧かつ慎重にご審議いただきつつ、全国の他の一級水系のバランス等を考慮して定められたものです。 具体の整備内容等を定める河川整備計画の策定にあたっては、必要に応じて関係住民の意見を反映させる措置を講じるよう法律に定められており、今後とも住民の皆様のご意見をお聴きしていきたいと考えています。

<ul style="list-style-type: none"> 小委員会資料の中で提示している浸水被害戸数のうち、旧八代市では何戸浸水被害にあったのか教えて欲しい。(資料では「八代市」の戸数しか書いていない。) 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回小委員会資料の「資料2-1」に記載している八代市の浸水戸数は、旧八代市の浸水戸数になります。
<ul style="list-style-type: none"> 宝暦5年以來、八代の球磨川の堤防は越水したことも破堤したこともない。球磨川の影響による浸水被害はゼロ。八代が浸かったのは、水無川の堤防が切れたときだけである。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時、市町村が取りまとめた過去の洪水被害記録は、詳細な分類がされていないため、被災原因の詳細までは十分に分かりません。
<p>【球磨川の治水対策について】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防の深掘れは遥拝堰の設計に問題があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防の深掘れの要因としては、球磨川が大きく湾曲しているためであると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 河川の中に州が出来ている関係で萩原堤防が深掘れしているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防の深掘れの要因としては、球磨川が大きく湾曲しているためであると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 水無川が砂利で埋まってしまい、昔のような流れが見えない。雨が降るたびに冷や冷やして見に行っている。水無川はいつ浚渫するのか。また、水無川上流に砂防えん堤を造るという話があるが、まだ進んでいない。 	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浚渫については、地元から要望により現地で立会い、早急に対応が必要な箇所を優先的に実施しています。H19年度浚渫工事はH19年12月下旬に完了しています。 砂防えん堤については、地元との調整を行っている状況です。
<ul style="list-style-type: none"> 水無川では大変な問題が起きている。県は、水無川をどうしたらいいか話し合う機会を是非持って欲しい。砂利は毎年撤去してもまたすぐ溜まる。この問題を解決するために前向きに検討して欲しい。これまでも話し合いはしてきたが、進んでいない。 	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の実施時や地元からの要請があれば、工事説明会等で地元住民に対して説明し、要望等を聞くこととしています。 砂利については、上流のえん堤に堆積があり、治水上支障があれば、次年度の予算を見ながら、対応したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 荒瀬ダムと瀬戸石ダムについて、目的は発電ということだが、大雨が降って水は満杯の状態にあり、ダムがもたない(壊れてしまう)から、ゲートを開けて下流に水が流れてくる。水害はダムによる人災ではなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒瀬ダムは県の企業局、瀬戸石ダムは電源開発(株)が管理している発電専用ダムです。 ゲート放流を行う際には、下流の水位上昇を見ながら急激な水位上昇とならないように操作するよう規則を定めているところです。 ダム操作に対するご懸念をお聞きしていることもあり、河川管理者として改めて操作の状況について確認を行うなど、しっかりと対応していきたいと思っております。
<ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防の危険性の歴史・資料というのは、ダムを造りたい国交省の捏造であったことが明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 八代市の萩原地区の堤防は、洪水時に水当たりが強い箇所であり、現在、堤防の脚元が深掘れしていることから、大きな石や砂利を埋める工事を実施しています。
<ul style="list-style-type: none"> 河川敷公園の上流側の砂利を削ったら、(萩原側の)水衝部が緩和されるのではないか。取った砂利を遥拝堰の下流におけば、激減してしまった鮎の良い産卵場にもなる。砂利を取り除くことの出来ない理由に「民有地なので、地権者の問題がある」と説明をしているが、氾濫原として犠牲になってきた渡町を安全にするために、旧建設省が街ぐるみの強制移転を行ったのは大昔の話ではない。国交省の説明は、ダム以外の治水方法を採用する意志がない、国交省の姿勢の表れであるとしか思えない。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに、法令で必要とされる堤防の厚みが足りない箇所について堤防断面を厚くする工事を行う必要があると考えています。 頂いたご意見は、今後、河川整備計画を策定する際の参考にさせていただきます。

<ul style="list-style-type: none"> 昭和40年は、当時の萩原堤防で7,800m³/sの出水があり、堤防天端近くまで水がきた。翌年よりの治水工事により、八代の住民は洪水への不安を払拭されたが、川辺川ダム費用対効果を保つために、萩原堤防の危険性を国交省が強調し始めた結果、「日本一危険な萩原堤防」となったが、平成17年には今の萩原堤防で6,700m³/s、平成18年は7,100m³/sの出水があったが、堤防道路天端までは4.0mの余裕を持ってながれ、国交省が主張する6,900m³/sしか流せないということも否定された。 	<ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防には法令で必要とされる堤防の厚みが不足している箇所があります。堤防の厚みについては、洪水時に河川の水が堤防に浸透することにより堤防が崩壊することを防ぐため確保するものです。堤防の厚みが不足している現状では、計画高水位以下でも浸透による崩壊のおそれがあります。従って、萩原堤防において、厚み不足を考慮した上で安全に流せる流量は6,900m³/sであると考えています。 それゆえに、平成18年7月洪水の時は、速報値で約7,100m³/s流れていますが、安全な状態ではなかったといえます。
<ul style="list-style-type: none"> 八代の治水に有効で、かつ住民が望んでいるのは、ダムではなくて、細やかな河川改修や堤防の手当てである。 住民の多数がダムによらない治水を望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ダムの整備などの具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していきたいと考えています。 ダムの整備などの具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> すぐ取り掛かれる治水を、国交省が怠り、川辺川ダムのみという選択肢を押し付けることへの、住民の不信・怒りが募っている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで河川改修を鋭意進めているところですが、治水対策が遅れていることにつきましては、大変申し訳なく思っております。出来るだけ早期に治水対策が進むよう、より一層努力していきたいと考えています。
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔は水無川上流までシラスが上ってきた。現在は水無川に汚れた水が入ってしまったと思う。川をきれいにするために魚を入れてもらいたい。 花火競技大会の時に、萩原側に座っていた住民が堤防沿いの木を切ってくれとよく言っていた。花火には全国から人がくるので、眺めをよくするために木を切れないか。昔は木が無かった場所に、自然と木が生えたのだから切っても問題ないのではないか。 	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水無川上流は水がきれいなことや、一方で下流は水質が悪いことは承知しています。河川環境については、行政だけで対応できないこともあり、地元の皆様や八代市とともに検討していく必要があると考えております。 河岸に生えている樹木は、鳥類や魚類などの棲み家になっていることもあります。生物等の生育・生息状況を確認させていただいたうえで、今後の対応を検討したいと考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。